スズキ低音オルガン
バスマスター

取扱説明書

この度はスズキ低音オルガン「バスマスター」EB-3000をお買い上げいただきましてありがとうございます。
本製品を末永く、そして安全に使用していただくため、
この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった取扱説明書は、大切に保管してください。

株式会社 鈴木楽器製作所

BASS MASTER EB-3000

使用上の注意

警告

改造・分解は危険です

改造や分解はしないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。

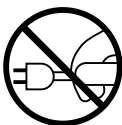
水・湿気は大敵です

水分や湿気の多い場所では、絶対に使用・保管しないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。

鍵盤蓋で挟まないように

手や指をはさまないように、鍵盤蓋の開閉に十分ご注意ください。

濡れた手で触らないで

濡れた手で電源プラグ・コードおよび本体に触れないでください。感電の恐れがあり大変危険です。

コードは引っ張らないでください

電源コードの上に物を置いたり、引っ張ったりしないでください。感電の恐れがあり大変危険です。

キャスターに巻き込まれないように

キャスターを指などで触れたり、製品の進行方向に足や手を置いたりしないでください。キャスターに巻き込まれたり、衝突したりして、ケガをする恐れがあります。

異常を感じたら電源を切ってください

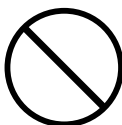
万一異臭や発熱など異常を感じたときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店またはスズキ各営業所にご連絡ください。

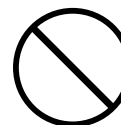
電源プラグは必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください

指定以外のコンセントに差し込むと、火災や感電の恐れがあり大変危険です。

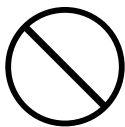
注意

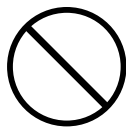
熱くなる場所を避けてください

自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなるところでの使用・保管は避けてください。変形・故障の原因になることがあります。

ホコリっぽい場所は避けてください

ホコリの多いところでの使用・保管は避けてください。故障や発火の原因になることがあります。

異物を入れないでください

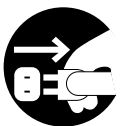
楽器とくに鍵盤に異物や液体を入れないようにしてください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。

注意

衝撃を与えないでください

楽器をぶつけたり、落としたりしないでください。製品に傷を付けるだけでなく、故障の原因になります。

不安定な場所に置かないでください

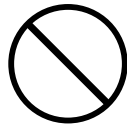
楽器を不安定な場所に置かないでください。転倒・落下をして思わぬケガをする危険があります。

移動は大人2人以上で

楽器を移動するときには必ずキャスターのロックを解除し、大人が2人以上で移動してください。また、平らな面以外では持ち上げて移動してください。転倒して思わぬケガをする危険があります。

使わないときや移動のときは電源プラグを抜いてください

ご使用の後は電源スイッチを切ってください。長時間演奏しないときや移動のときは、楽器保護のためコンセントから電源プラグを抜いてください。

お手入れはやわらかい布で

お手入れはやわらかい布でカラ拭きしてください。アルコール・シンナー・ベンジン等は製品を傷めますので絶対に使用しないでください。

大音量で長時間使用し続けない

本製品を大音量で長時間使用し続けると、聴覚障害の原因となることがあります。適度な音量と休憩を心がけてください。

完全に電源を切る必要があるときは、本製品の電源スイッチを切った後、コンセントからプラグを抜いてください。そのため、電源コードのプラグを差し込むコンセントは、この機器にできるだけ近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。

製品の上に乗ったり重いものを乗せたりしないでください

製品に傷を付けるだけでなく、故障の原因になります。また、転倒・落下をして思わぬケガをする危険があります。

移動運搬の際には接続ケーブルをすべて外してください

ケーブルが接続されたままでの移動は、ケーブルを傷めるだけでなく製品が転倒するなど思わぬ事故の原因となり、危険です。

移動の時以外は、キャスターを必ずロックしてください

キャスターが動く状態での使用・保管は思わぬ事故の原因となり、危険です。

目次

使用上の注意 1
目次 3
仕様と主な特長
仕様 4
主な特長 4
各部の名称とはたらき
上面 5
ジャックパネル 6
背面 6
演奏する前に
音を出してみましょう 7
デモ演奏の聴きかた 8
音色を選んで演奏する
バス楽器音色を使う 9
バス楽器音色を選ぶ
サスティン効果をかける
バスマスター音色を使う 10
バスマスター音色を選ぶ
音質
アタック
げんすい
サスティン
バリエーション 11
バス楽器音色の場合
バスマスター音色の場合
音色ミックス 12
音色をミックスする
効果音 12
効果音を使う
その他の機能
チューナー 13
チューナー機能を使う
エクスプレッションレバー 13
ビブラート 13
ピッチ 14
ピッチを設定する
ストレッチチューニングをおこなう
ブランクチャート 14
MIDIについて
MIDIとは 15
MIDIとは
MIDI端子
MIDIの接続例 15
二人で演奏する
MIDIチャンネル 16
MIDIチャンネルとは
本機のMIDI構成
鍵盤のMIDIチャンネルを設定する
MIDIインプリメンテーションチャート 17
故障とお考えになる前に 18

仕様と主な特長

仕様

音源	：	VASEⅢ、64Mbit
最大同時発音数	：	鍵盤演奏8音、MIDI入力32音
鍵盤	：	37（Cスケール3オクターブ）標準鍵盤
音色	：	バスマスター3音色（弦・金管・木管）、及びバリエーション3音色、パネル11音色（コントラバスアルコ・コントラバスピチカート・チューバ・フィンガーベース・ピックベース・バスメロディオン・バス木琴・ファゴット・バスクラリネット・ティンパニ・チャイム）及びバリエーション11音色、MIDI音色345音色+14ドラムセット
効果音	：	37音色
効果	：	【全体】ビブラート 【バスマスター音色】音質、アタック、げんすい、サステイン 【バス音色】サステイン
コントロール	：	音量、エクスプレッションレバー、ピッチ、外部入力音量、マイク音量、エクスプレッションペダル（外付けペダル別売）
機能	：	チューナー音発音機能、音色ミックス、ストレッチチューニング
デモンストレーション	：	内蔵一曲（ボレロ）
外部端子	：	ヘッドホン出力（ステレオ標準ジャック）、外部入力（モノラル標準ジャック）、外部出力（モノラル標準ジャック）、マイク入力（モノラル標準ジャック）、エクスプレッションペダル入力、MIDI（IN/OUT/THRU）
出力	：	120W
スピーカー	：	38cm×1、10cm×1
電源	：	AC100V 50/60Hz
消費電力	：	225W
材質	：	スチールパネル、アクリルふた、MDF本体、AS白鍵、ABS黒鍵、エラストマーボタン
寸法	：	65×49×81cm
重量	：	50kg
備考	：	キャスター付、ふた緩衝装置付

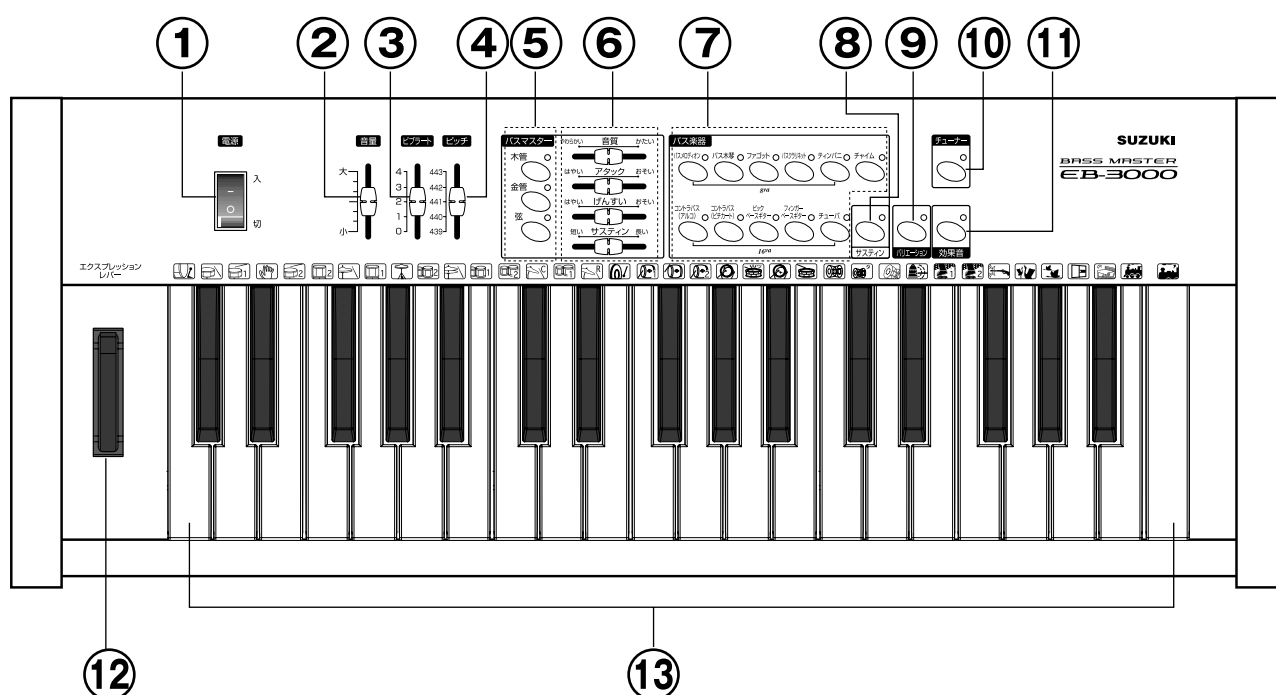
主な特長

- 120Wの大出力。迫力あるベース音がアンサンブルを強力にバックアップ。
- ラクラク便利なキャスター付き。
- 音色を2倍に活用できる「バリエーションスイッチ」。
- 2音色を同時に演奏できる「ミックス機能」。
- 曲想に合わせて様々な調整が可能な「バスマスター音色」搭載。
- 新音源搭載で、音色がさらに美しく鮮明に
- 環境に配慮した低ホルムアルデヒド材を使用（F☆☆☆☆）※。

※F ☆☆☆☆（エフ・フォースター）とは

JISとJASが定めるホルムアルデヒド放散量に対する基準で、「F+☆マーク」で表示されます。
F☆☆☆☆は、「ホルムアルデヒド発散量が最も少ない」とされる最高基準であり、
使用面積に制限のない材料であることを表すものです。

各部の名称とはたらき

上面

① 電源スイッチ
本機の電源を「入／切」します。スイッチを入れると「弦」のランプが点灯し、演奏できる状態になります。

② 音量つまみ
本機の音量を調節します。外部入力端子およびマイク入力端子の音量は変化しません。

③ ビブラートつまみ …→ P13
バスマスター音色やバス楽器音色にかかるビブラート効果を調節します。

④ ピッチつまみ …→ P14
本機の基準ピッチを調節します。

⑤ バスマスター音色スイッチ …→ P10
鍵盤で演奏するバスマスター音色を選びます。

⑥ バスマスター音色調整つまみ …→ P10

『音質つまみ』
バスマスター音色の、音の明るさを調節します。

『アタックつまみ』
バスマスター音色の、鍵盤を押してから音量が最大になるまでの立ち上がり時間を調節します。

『げんすいつまみ』
バスマスター音色の、鍵盤を押している間に音量が減衰していく時間を調節します。

『サスティンつまみ』
バスマスター音色の、鍵盤から手を離してからの余韻時間を調節します。

⑦ バス楽器音色スイッチ …→ P9
鍵盤で演奏するバス楽器音色を選びます。
鍵盤ではバス楽器音色、バスマスター音色、効果音、そしてチューナー機能のうち一つのみが演奏可能で、フロントパネル上のランプも選択されたものが点灯します。

⑧ サスティンスイッチ …→ P9
バス楽器音色の、鍵盤から手を離してからの余韻を長くします。音色によっては効果のないものもあります。

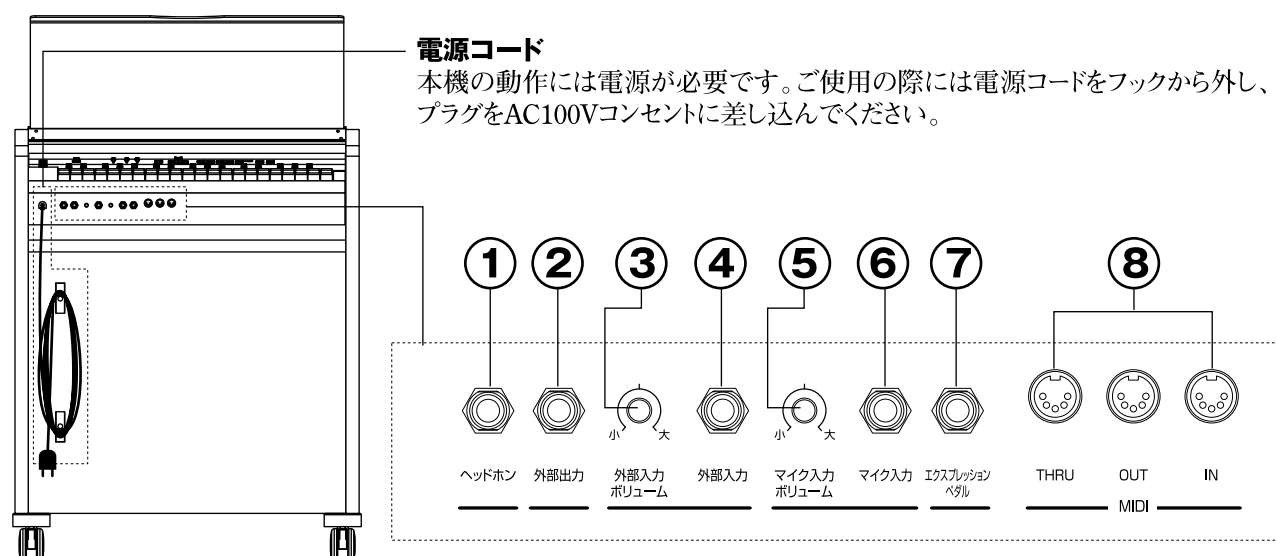
⑨ バリエーションスイッチ …→ P11
バス楽器音色、バスマスター音色の、各バリエーションを選択します。

⑩ チューナースイッチ …→ P13
本機をチューナーとして使用する際に押します。
鍵盤を弾くとチューナー音が発音し、鍵盤から手を離してもその音が鳴り続けます。

⑪ 効果音スイッチ …→ P12
鍵盤で打楽器音や効果音を演奏する際に押します。
各鍵に違った打楽器音・効果音が割り当てられ、リズムや情景に応じた打楽器音・効果音を演奏できます。

⑫ エクスプレッションレバー …→ P13
鍵盤の音量を調節します。

⑬ 鍵盤
3オクターブ、ベロシティ無し、標準サイズの鍵盤です。

ジャックパネル

① ヘッドホン端子（ステレオ標準ジャック）
ヘッドホンを接続する場合に使用するステレオ標準ジャックの端子です。スピーカーからは音が出なくなります。本機の出力はモノラルで、ステレオヘッドホンを使用すると左右からは同じ音が聞こえます。

② 外部出力端子（モノラル標準ジャック）
本機の演奏を外部のアンプで拡声したり、録音したりする場合に使用する端子です。

③ 外部入力ボリューム
外部入力の音量を調節します。

④ 外部入力端子（モノラル標準ジャック）
ラインレベルの機器を接続し、
本機のスピーカーで鳴らす場合に使用する端子です。

⑤ マイク入力ボリューム
マイク入力の音量を調節します。

⑥ マイク入力端子（モノラル標準ジャック）
マイクロホンを接続し、本機のスピーカーで鳴らす場合に使用する端子です。

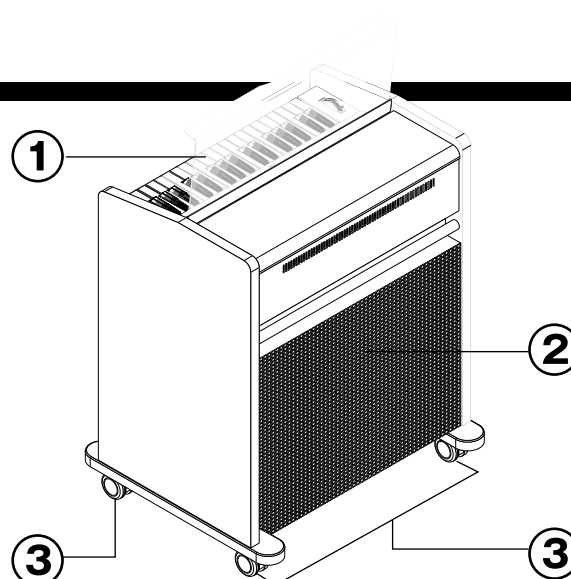
⑦ エクスプレッションペダル端子
別売のエクスプレッションペダル（EXP-20、EXP-50）を接続し、鍵盤音量を足で調節する場合に使用する端子です。

⑧ MIDI端子 …→ P15
MIDI IN/OUT/THRUの3つの端子があります。
他のMIDI機器と接続するときに使用します。

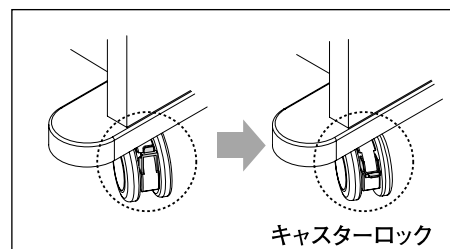
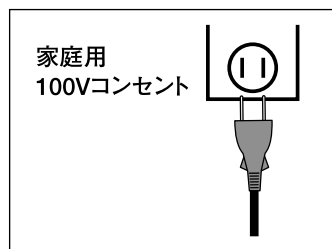
背面

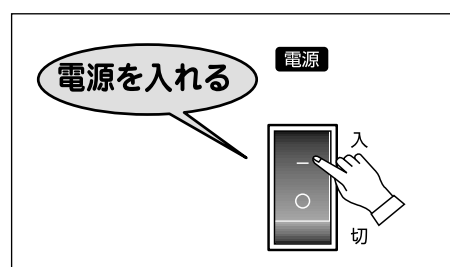
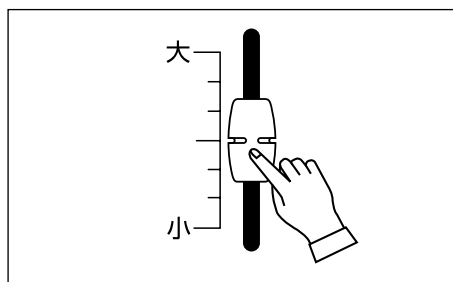
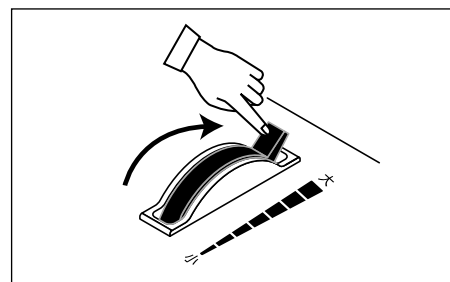
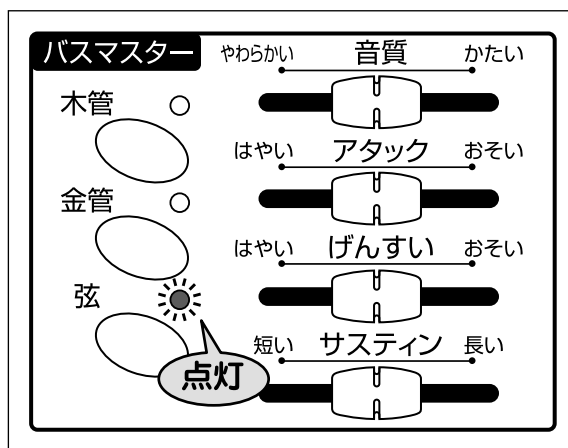
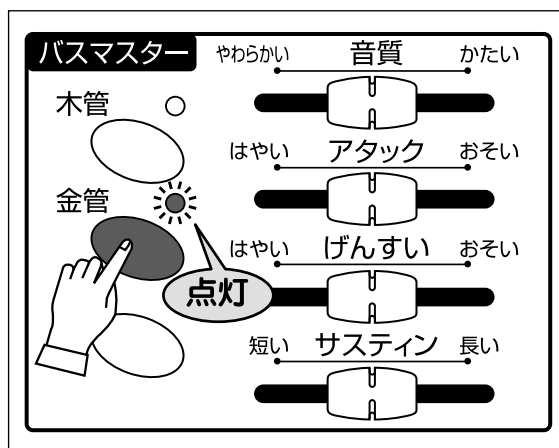
① 鍵盤蓋
譜面立てを兼ねた鍵盤蓋です。

② スピーカー
本機の音は背面のスピーカーから出ます。

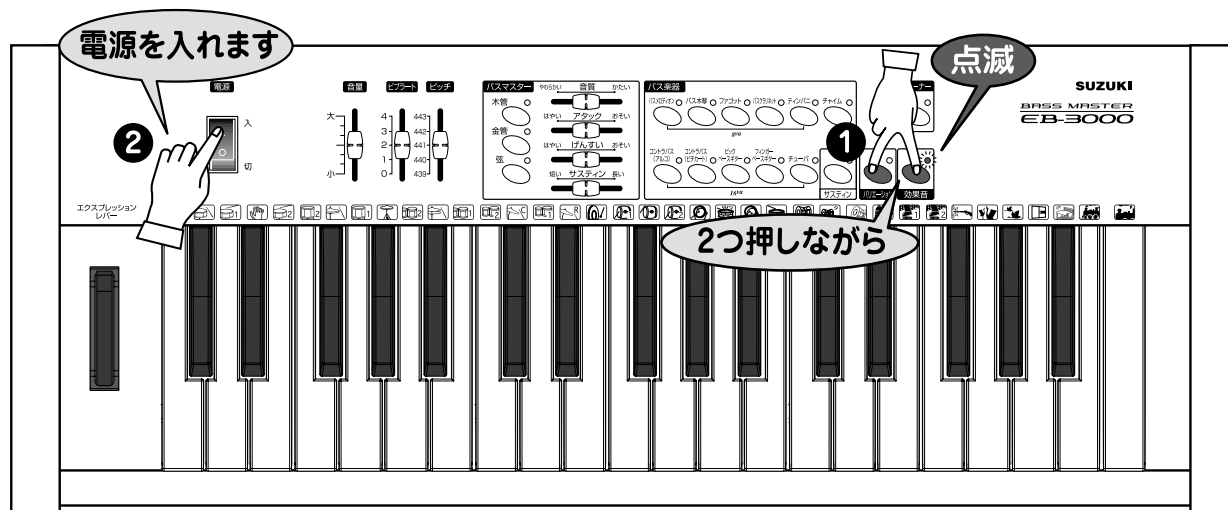
③ キャスター
前輪ロック付きのキャスターです。

演奏する前に

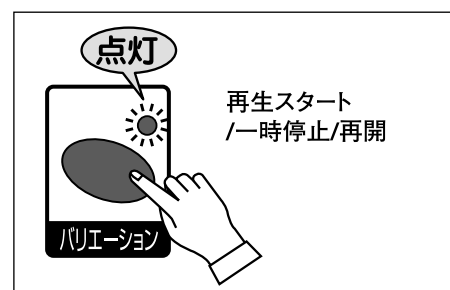
音を出してみましょう

① 電源プラグをコンセントに差し込み
キャスターをロックしてください。

② 「電源」スイッチを入れます。

※本機は回路保護のため、電源投入後約3秒間は音が出ません。

③ 「音量」つまみを中央付近にセットします。

④ 「エクスプレッションレバー」を奥にセットします。

⑤ バスマスター音色スイッチの「弦」のランプが
点灯しています。鍵盤を弾いてみましょう。
「弦」の音が出ます。

⑥ そのとなりにある「金管」のスイッチを押して
鍵盤を弾いてみましょう。
「金管」のランプが点灯し、「金管」の音が出ます。

デモ演奏の聴きかた

本機の機能や特長を紹介するためのデモ演奏『ボレロ』が1曲内蔵されています。

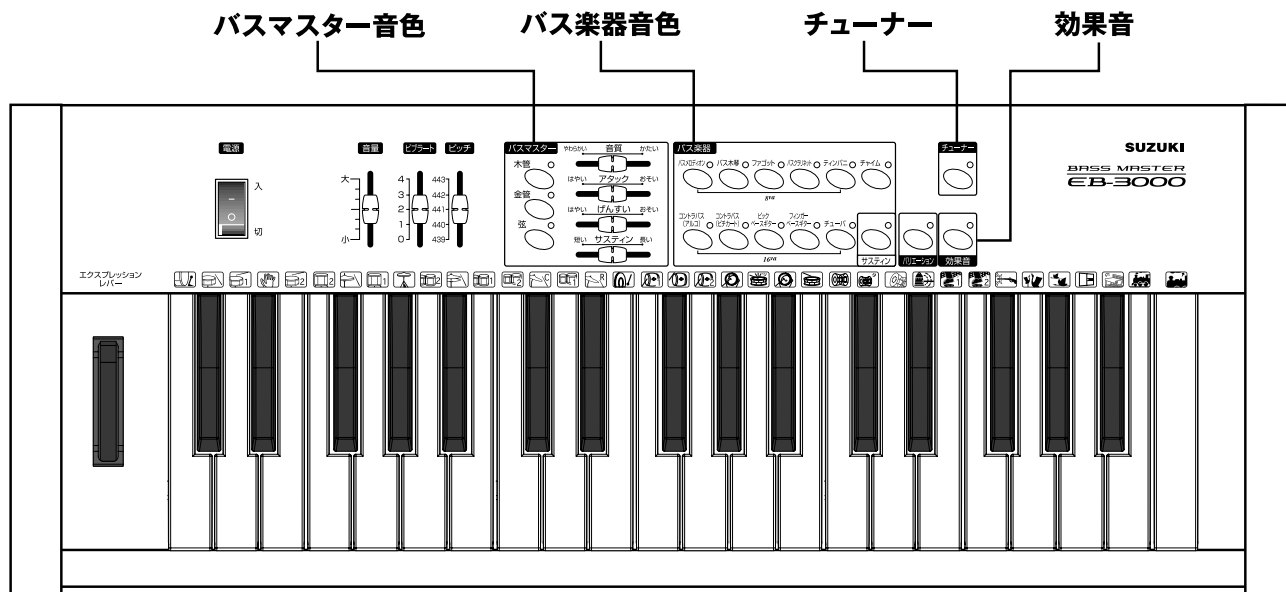
① 「効果音」と「バリエーション」スイッチを押しながら電源スイッチを入れます。
電源が入り、「効果音」ランプが点滅しデモ演奏モードであることを表示します。

② 再生を始めるには「バリエーション」スイッチを押します。
ランプが点灯し、再生が始まります。
再生を一時停止／再開するには
「バリエーション」スイッチをもう一度押します。

※デモ演奏のモードでは、音量つまみ以外のスイッチやつまみ、
鍵盤は働きません。

③ デモ演奏モードを終了するには、「電源」スイッチを切って
ください。
デモ演奏は、電源を切るまでリピート再生されます。

注記

デモ曲中には、フロントパネル上に表記されている音色だけではなく、MIDIでのみ使用可能な内蔵音色やドラムセットが使用されています。
また、複数の音色を同時に使った演奏やピッチベンドなどの表現はMIDIでのみ可能です。

音色を選んで演奏する

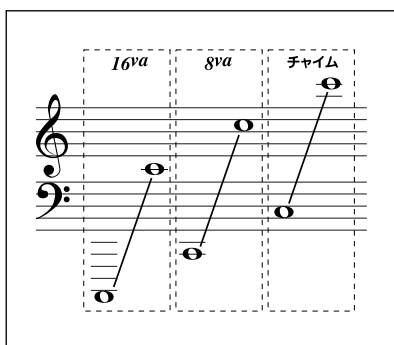
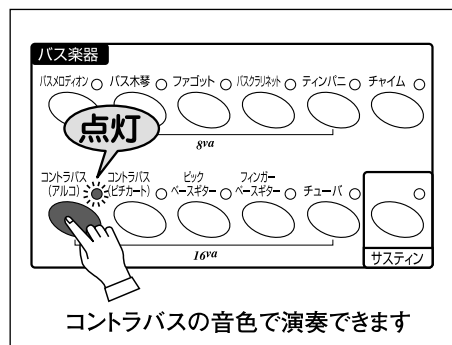
本機はバス楽器音色、バスマスター音色、効果音、チューナー機能の各音色群があり、そのうち1つを選び鍵盤で演奏できます。

バス楽器音色を使う

バス楽器音色は、バス楽器音色スイッチで選択できる11音色のことです。

コントラバス（アルコ）、コントラバス（ピチカート）、ピックベースギター、フィンガーベースギター、チューバ、バスメロディオン、バス木琴、ファゴット、バスクラリネット、ティンパニ、チャイム

■ バス楽器音色を選ぶ

各音色スイッチを押すとランプが点灯し、その音色で演奏できるようになります。

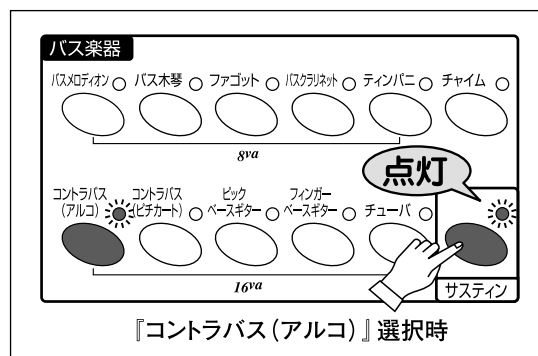
※ 音域は各音色によって自動的に変わります。
「16va」の表示がある物は右端の鍵盤が中央ド、「8va」の表示があるものは右端から2番目のドが中央ド、そして「チャイム」は右端から3番目のドが中央ドで発音します。

コントラバスの音色で演奏できます

低音楽器では多くの場合、楽譜には実音よりも1オクターブ高く表記されています。左図は実音での表記ですので、演奏時には曲にふさわしいと思われる音域をご使用ください。

■ サスティン効果をかける

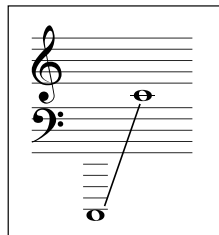
鍵盤から手を離した後に余韻を付ける効果です。
効果を得るには、「サスティン」スイッチを押してランプを点灯させます。

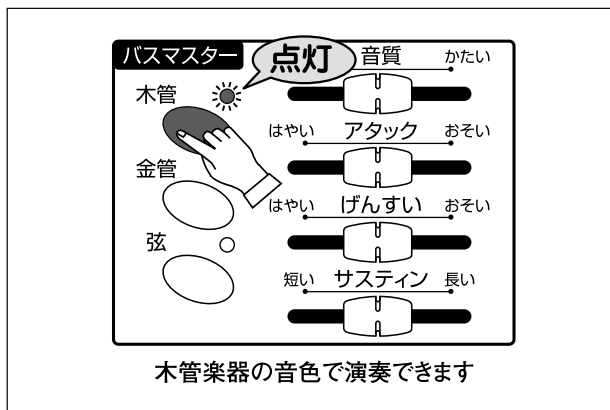
※ バス木琴、ティンパニ、チャイムにはサステイン効果はかかりません。

『コントラバス（アルコ）』選択時

バスマスター音色を使う

バスマスター音色はバス楽器音色と比較すると単純な音色ですが、さまざまなコントロールによって表情豊かな表現ができます。

■ バスマスター音色を選ぶ

基本的な音色を3音色から選びます。
各スイッチを押すとランプが点灯し、その音色で演奏できるようになります。

※ バスマスター音色の音域は、鍵盤右端が中央ドで発音します。

低音楽器では多くの場合、楽譜には実音よりも1オクターブ高く表記されています。左図は実音での表記ですので、演奏時には曲にふさわしいと思われる音域をご使用ください。

木管楽器の音色で演奏できます

■ 音質

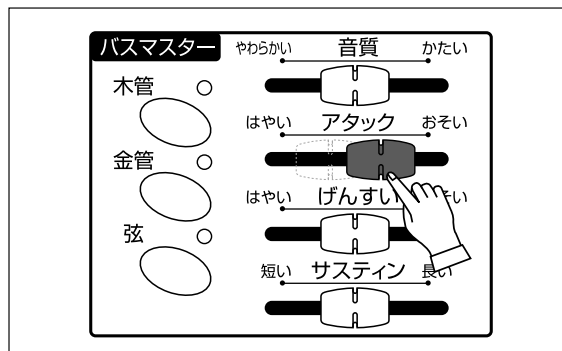
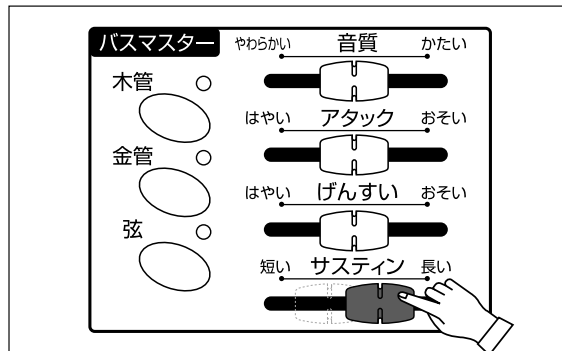
音の明るさを変化させます。
例えば「金管」で鍵盤を押しながら操作すると、金管楽器に息を吹き込む量を変えているような効果を作ることができます。右に動かすと音が明るくなります。

■ アタック

鍵盤を押してから音量が最大になるまでの時間を調節します。
アタックを遅くすると、管楽器をそっと吹いたり、弦楽器の弓をゆっくり動かしたりしたような効果を得ることができます。右に動かすとアタックが遅くなります。

■ げんすい

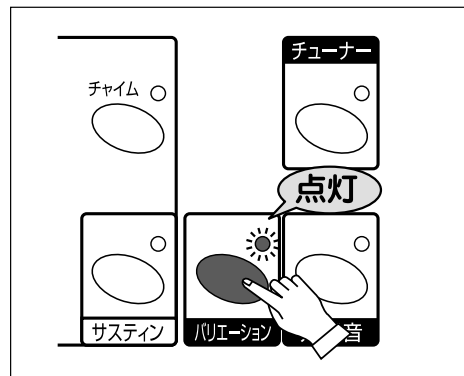
鍵盤を押している間音量が減衰するかどうか、またその時間を調節します。
げんすいを短くすると弦楽器ではピチカート奏法のような効果や、管楽器ではスタッカートに演奏したような効果が得られます。右に動かすと減衰が長くなり、右いっぱいで減衰しない持続音になります。

■ サスティン

鍵盤から手を離した後の余韻を調節します。
本来の余韻だけでなく、一本指で演奏してもフレーズをきれいにつなげたい場合にも効果的です。右に動かすと余韻が長くなります。

バリエーション

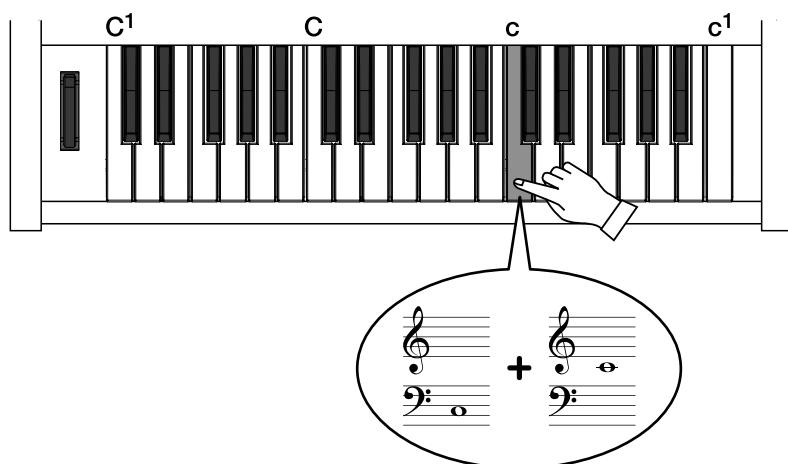
各バス楽器音色、バスマスター音色には、別音色とのアンサンブルやオクターブユニゾンといったバリエーション音色があります。
バリエーション音色を使うには、スイッチを押してランプを点灯させます。

■ バス楽器音色の場合

バリエーションスイッチ「オン」時の各バス楽器音色は、下表の通りになります。

バリエーションスイッチ	
オフ	オン
コントラバス（アルコ）	ストリングス
コントラバス（ピチカート）	アコースティック・ベース+ライドシンバル
ピック・ベースギター	フレットレス・ベース
フィンガー・ベースギター	スラップ・ベース
チューバ	チューバ+トロンボーン
バスメロディオン	バス・メロディオン・オクターブ
バス木琴	バス木琴+スティール・ドラム
ファゴット	ファゴット+フルート
バスクラリネット	バス・クラリネット+クラリネット
ティンパニ	ティンパニ・ロール
チャイム	チャーチ・ベル

■ バスマスター音色の場合

各バスマスター音色はオクターブユニゾンになります。バリエーションスイッチ「オン」時は、鍵盤を押さえると、その鍵盤の音と1オクターブ上の音が同時に鳴ります。

例）「c」の鍵盤を押さえると「c」と「c1」の音が鳴ります。

音色ミックス

バス楽器音色は2つまでの音色をミックスして同時に鳴らすことができます。

■ 音色をミックスする

音色をミックスをするには、ミックスしたい2つの音色スイッチを同時に押します。

※「チャイム（チャーチ・ベル）」音色は、他音色とミックスできません。
※ バリエーション「オフ」のグループの音色と「オン」のグループの音色はミックスできません。（P11の表をご参照ください）

バリエーションスイッチ「オフ」時

「コントラバス」と「バス・メロディオン」がミックスされた音色が鳴ります。

バリエーションスイッチ「オン」時

「ストリングス」と「バス・メロディオン・オクターブ」がミックスされた音色が鳴ります。
（P11をご参照ください）

効果音

効果音は鍵盤の各37鍵にそれぞれ打楽器音や効果音が割り当てられ、演奏できる音色です。鍵盤の低音域は一般の器楽演奏で使用する打楽器音、また高音域には演劇に便利な効果音が割り当てられています。

■ 効果音を使う

効果音を使うには、スイッチを押してランプを点灯させます。各鍵盤に割り当てられた効果音は下図の通りです。

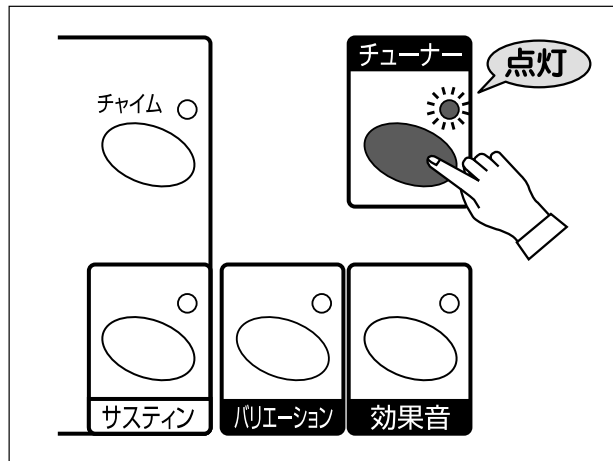
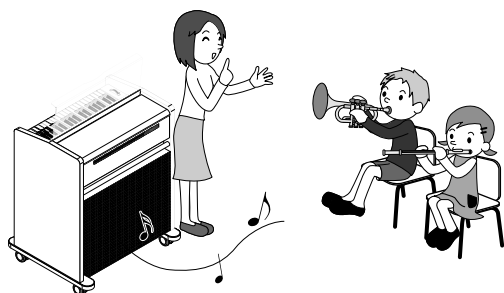
その他の機能

チューナー

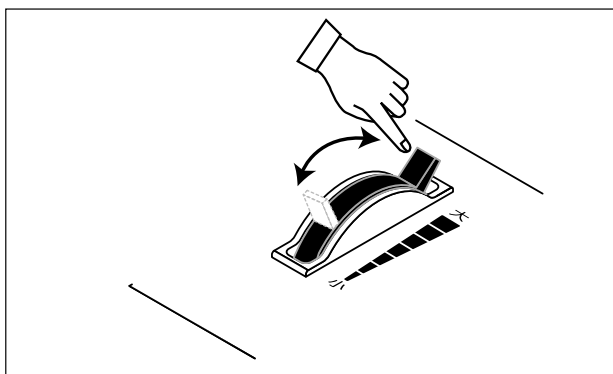
一定の持続音を発音させる機能です。他の楽器を調律する際に便利です。

■チューナー機能を使う

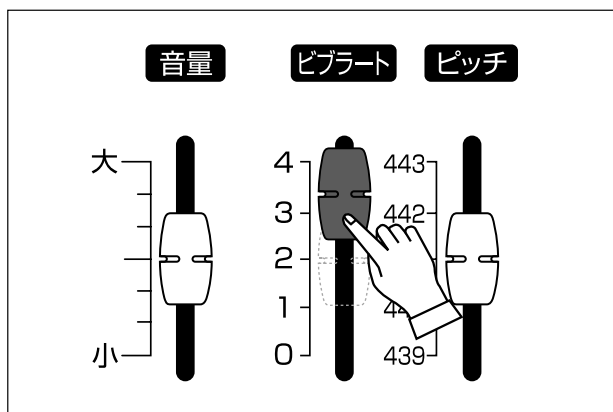
チューナー機能を使うには、ボタンを押してランプを点灯させます。鍵盤を演奏すると、鍵盤から手を離してもその音が鳴り続けます。音を止めるには、他の音色を選ぶか、チューナーボタンをもう一度押します。

※チューナー機能で発音できるのは1音のみです。

エクスプレッションレバー

鍵盤を弾きながら操作して、演奏に抑揚を付けることができます。エクスプレッションレバーを手前に引くと鍵盤の音量が小さくなり、奥へ押すと音量が大きくなります。

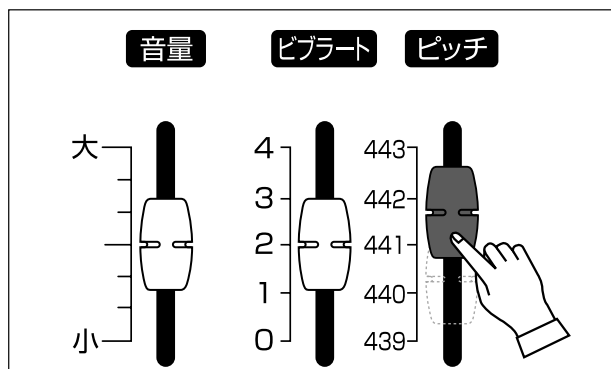
※チューナー機能使用時は、チューナー音にはエクスプレッション効果はかかりません。

ビブラート

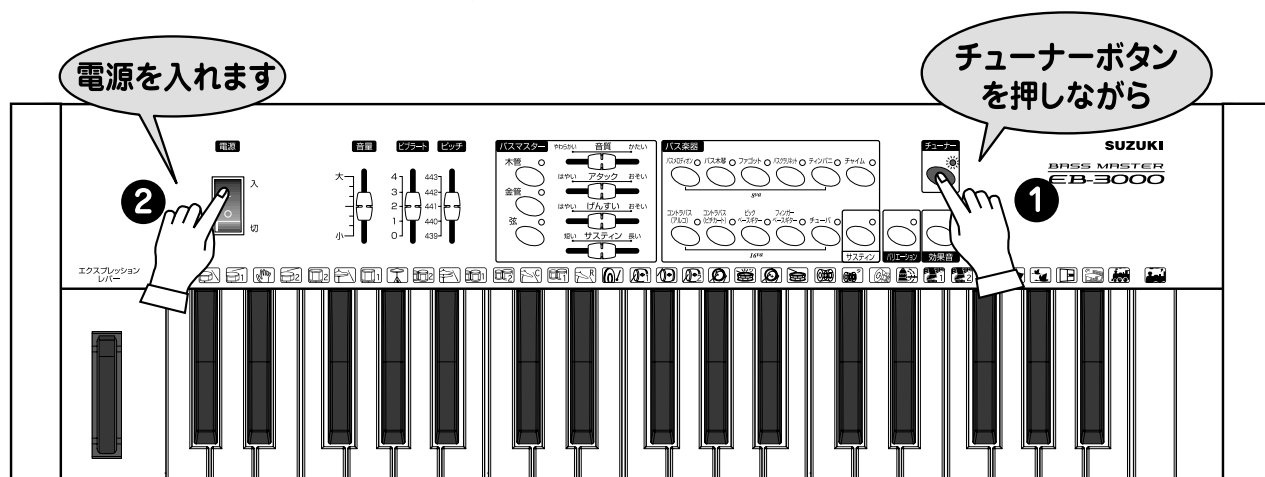
音程を微妙にふるわせ、音色に潤いを与えます。ビブラートつまみが0の位置ではビブラート効果がかからず、4の位置で最大の効果になります。

※ビブラート効果はバス楽器音色とバスマスター音色にかかります。

ピッチ

本機の基準ピッチを設定します。アンサンブルなどで、他の楽器と基準ピッチを合わせる際に使用します。

■ピッチを設定する

ピッチつまみで、A=439〜443Hzまでの範囲で設定できます。

■ストレッチチューニングをおこなう

ピアノで使用されるようなストレッチチューニング（低音ほど平均律より低く調律する）が行えます。
ストレッチチューニングを行うには「チューナー」ボタンを押しながら電源を入れます。
※この機能は、本体鍵盤の演奏にのみ有効です。

ブランクチャート

本番前のセッティングを簡単に行うために、このブランクチャートをコピーしてご利用ください。
サイズは実寸の1/2となっております。

ブランクチャートは弊社ホームページからもダウンロードしていただけます。
http://www.suzuki-music.co.jp/support/dl_electronic.htm

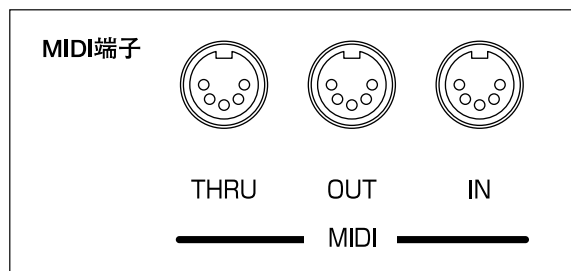
MIDIについて

MIDIとは

■ MIDIとは

MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略で、楽器どうしを接続して演奏情報を交換しあうための統一規格です。MIDI対応の電子楽器であれば、どこの国のどのメーカーのものでも、情報の交換ができます。
※ **MIDIはAMEI（音楽電子事業協会）の登録商標です。**

■ MIDI端子

MIDI対応機器にはMIDI端子があり、その接続には専用のMIDIケーブルを使用します。本機にはMIDI IN/OUT/THRUの3つの端子があります。

【MIDI IN】

MIDI信号を受け取る端子です。ここで受け取った信号に従って音が出ます。
本機では16パートのマルチティンバーのMIDI信号を受信します。

【MIDI OUT】

演奏情報をMIDI信号にして送り出す端子です。本機では、鍵盤のMIDIチャンネルを設定するとフロントパネル上の音色選択、本体の鍵盤演奏、エクスプレッションレバーやスライダーの操作などを送信します。
MIDI OUTを使用する場合は、鍵盤のMIDIチャンネルを設定してください。

【MIDI THRU】

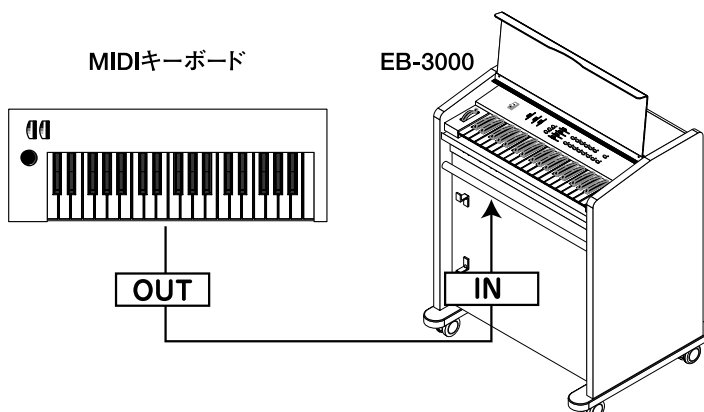
MIDI IN端子で受信したMIDI信号をそのまま送り出す端子です。

MIDIの接続例

■ 二人で演奏する

MIDIキーボードを接続して、二人で本機の音色を使って演奏することができます。MIDIキーボードのMIDI OUTを本機のMIDI INへ接続し、その送信チャンネルを1にします。本機の送信チャンネルは設定しません。これで本機をMIDIキーボードで演奏できるようになります。

本機のMIDI機能の詳細な説明は、この取扱説明書では割愛させていただきます。必要な方は弊社ホームページをご参照ください。

http://www.suzuki-music.co.jp/support/dl_electronic.htm

MIDIチャンネル

■ MIDIチャンネルとは

必要な情報だけを送ったり受けたりできるように、MIDIには1〜16までのチャンネル（以下Ch.）があります。これはテレビのチャンネルと同じような概念で、必要な情報を送信する局のチャンネルに合わせれば、その情報が得られます。

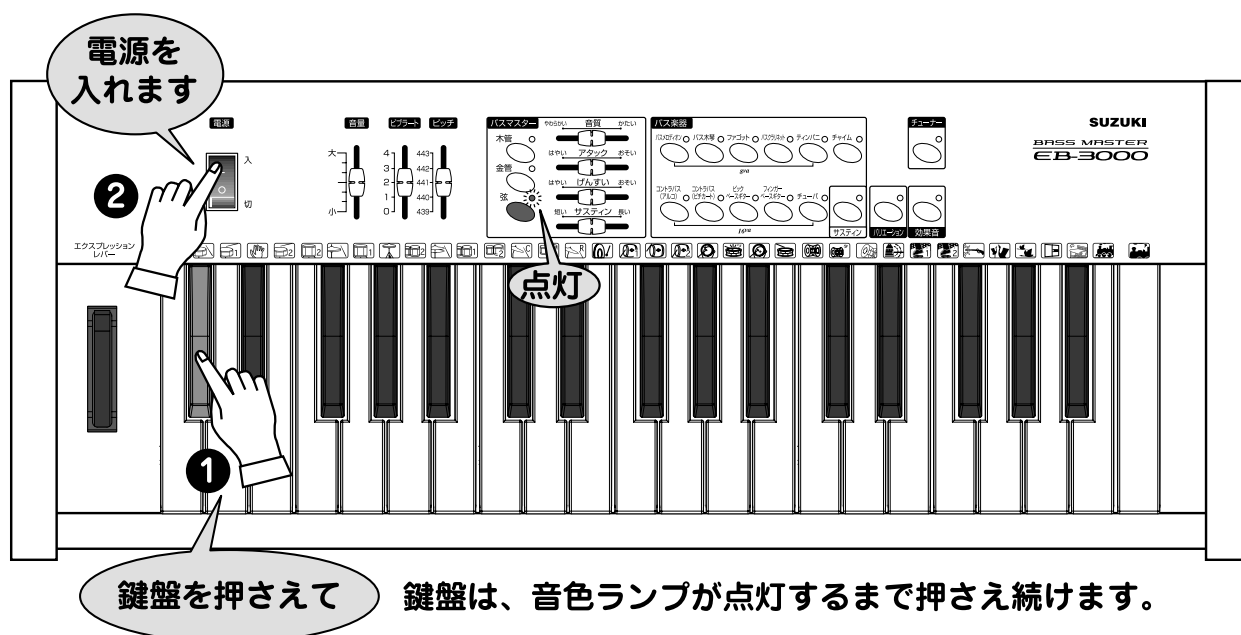
■ 本機のMIDI構成

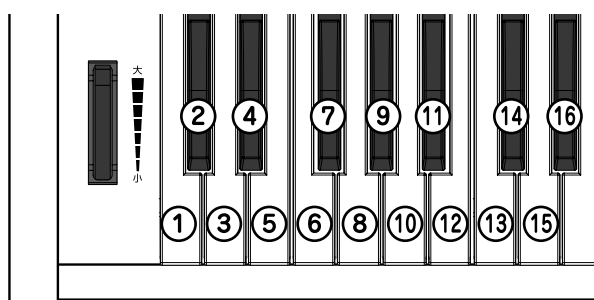
本機は17パートのマルチティンバー音源（パート1〜16、鍵盤パート）を採用しています。本機の鍵盤演奏は常に鍵盤パートで発音します。鍵盤MIDI Ch.を1にすると、鍵盤演奏をMIDI端子のCh.1へ送信します。鍵盤MIDI Ch.が「オフ」のときは、鍵盤演奏は送信せず、各Ch.で受信したデータはパート1〜16が発音します。

パート	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	鍵盤
MIDI Ch.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	オフ

（通常、電源を入れた場合は鍵盤MIDI Ch.はオフです。）

■ 鍵盤のMIDIチャンネルを設定する

電源を切ります。
下図を参考に鍵盤を押しながら電源を入れます。
例えば送信チャンネルを2にするには、一番左のオクターブの「ド#」を押しながら電源を入れます。
鍵盤は音色ランプが点灯するまで押さえ続けてください。

鍵盤は、音色ランプが点灯するまで押さえ続けます。

鍵盤とMIDIチャンネルとの対応は右図の通りです。

MIDIインプリメンテーションチャート

［スズキ低音用オルガン］
Model：EB-3000

MIDI インプリメンテーション・チャート

Date：7-Oct-2004
Version：1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシックチャンネル	電源ON時	OFF	1-16	
	設定可能	1-16、OFF	1-16	鍵盤チャンネル
モード	電源ON時	3	3	
	メッセージ	×	×	
	代用	·····	×	
ノートナンバー		24-84	0-127	
	：音域	·····	0-127	
ベロシティ	ノート・オン	×	○	
	ノート・オフ	×	×	
アフタータッチ	キー別	×	×	
	チャンネル別	×	×	
ピッチベンド		×	○	
コントロールチェンジ	0、32	○	○	バンク・セレクト
	1	×	○	モジュレーション
	6、38	×	○	データ・エントリー
	7	○	○	ボリューム
	10	×	×	パン
	11	○	○	エクスプレッション
	64	×	○	ホールド1（ダンパー）
	71	×	○	レゾナンス
	72	○	○	リリース・レイト
	73	○	○	アタック・レイト
	74	○	○	カット・オフ・フリケンシー
	75	○	○	ディケイ・レイト
	80	○	○	ビブラートスイッチ
	81	○	○	サスティンスイッチ
	82	×	×	コーラススイッチ
	91	×	×	リバーブ・センド・レベル
	93	×	×	コーラス・センド・レベル
	94	×	×	ディレイ・センド・レベル
	98、99	×	○	NRPN LSB、MSB
	100、101	×	○	RPN LSB、MSB
	120	×	○	オール・サウンド・オフ
	121	×	○	リセット・オール・コントローラー
プログラムチェンジ		○ 1-128	○ 1-128	
	：設定可能範囲	·····	○	
エクスクルーシブ		×	○	
コモン	：ソング・ポジション	×	×	
	：ソング・セレクト	×	×	
	：チューン	×	×	
リアルタイム	：クロック	×	×	
	：コマンド	×	×	
その他	：ローカルON OFF	×	×	
	：オール・ノート・オフ	○	○	
	：アクティブ・センシング	○	○	
	：リセット	×	×	

モード1：オムニ・オン、ポリ　　モード2：オムニ・オン、モノ
モード3：オムニ・オフ、ポリ　　モード4：オムニ・オフ、モノ

○：あり
×：なし

故障とお考えになる前に

故障かな?と思ったら、もう一度下記の項目をご確認ください。それでも症状が解消しない場合は速やかに電源を切り、電源プラグをコンセントから外して、お買い上げの販売店又は最寄りのスズキ営業所にお問い合わせください。

症状	原因	処置
電源が入らない	電源が抜けている	電源プラグをコンセントに差してください。
電源は入るが音が出ない	「音量」つまみが最小になっている	「音量つまみ」を中ほどまで上げてください。
	「エクスプレッションレバー」が最小になっている	「エクスプレッションレバー」を奥側へ動かしてください。
	ヘッドホンを接続している	ヘッドホンを接続しているときは、スピーカーからは音は出ません。必要な場合は、ヘッドホンを抜いてください。
時々雑音が入る	すぐ近くで電気機器を使用している	電気機器から離れたコンセントを使用してください。
テレビ、ラジオに雑音が入る	すぐ近くで使用している	雑音が入る機器からできるだけ離して使用してください。
音がビリつく	近くに共鳴する物がある	音量を小さくするか、共鳴している物を離してください。
音が途中で消える	最大発音数を越えて発音させている	本機の最大同時発音数は効果音で32音、バス楽器及びバスマスター音色では8音、チューナー音色では1音です。
	サスティン機能を使用している	音色によっては音の「濁り」を防ぐため、新しい音の発音時に前のサスティン音は消えるようになっています。